



シンポジスト

とみた うちゅう
富田 宇宙
EY Japan



プロフィール

1989年2月28日生まれ 熊本県出身

【学歴】

2007年3月 熊本県立済々黌高等学校 卒業

2012年3月 日本大学 文理学部 情報システム解析学科 卒業

2019年3月 日本体育大学大学院 体育科学研究科 博士前期課程 卒業

2022年3月 日本体育大学大学院 体育科学研究科 博士後期課程 単位取得退学

【職歴】

2012年4月 キヤノンITソリューションズ株式会社 入社

2015年9月 EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 入社（在職）

【経歴】

3歳で水泳を始め、小、中、高と水泳部に所属し競泳を継続、文武両道に努めた。物心ついた頃から宇宙飛行士に憧れ自然科学への興味が強く、自然学校(NPO法人自然を愛する会)での活動を好んだ。無人島での自給自足生活や、募金を集めて海外へ直接届けに行くなど、アクティブな幼少期を過ごす。

航空宇宙工学系への進学を目指して九州の名門、済々黌高校に進学したものの、2年時に失明に至る難病、網膜色素変性症が発症する。一時は自暴自棄になったものの競泳は卒業まで継続、同校初の九州大会出場という結果を最後に競泳を引退した。

その後、視覚障がい者でも就労できる職業を検討してシステムエンジニアを目指し、大学では情報工学を専攻した。課外活動では以前から興味のあった身体表現を学び、役者と競技ダンサーという2足の草鞋で活動した。

4年次にはダンス部で主将を務め、日本大学を12年ぶりとなる全日本学生選抜競技ダンス選手権大会に導く。また同時期に東京都視覚障がい者生活支援センターに通所、スクリーンリーダー（音声読み上げソフトウェア）の使用や白杖を用いての歩行訓練など、障がいのリハビリテーションに取り組んだ。東京都障がい者技能競技大会パソコン操作の部で金賞を獲得している。

大学卒業後はキヤノンのソフトウェアエンジニアとなり、システム開発コンサルティング業務や、国税庁の税務管理システム開発に従事した。入社1年目に全国障がい者職業技能大会で銅賞を獲得、東京都知事賞を受賞した。

エンジニアとしての就労中もダンス選手を継続し、三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権大会などに出場したが、障がいの進行から第一線での競技継続を断念、引退を余儀なくされた。ダンスについてはその後2016年、視覚障がい者の競技ダンス大会である全日本ブラインドダンス選手権で障がい者ダンサーとして復帰、2017年、2018年、2021年、2022年と5連覇している。2018年の大会では24時間テレビの企画に協力、タレントの佐藤葉里とペアを組んで話題となった。2021年12月にはNHK紅白歌合戦に松平健のバックダンサーとして出演するなど、障がいを超えたパフォーマンスで勇気と感動を届ける活動にも力を入れている。

パラ競泳を開始したのは2012年。自身の障がいを活かせるフィールドを求めて2013年から国内大会に出場するようになり、この頃に東京オリンピック・パラリンピックの招致が決定。パラリンピック出場を視野に入れて徐々にトレーニングを本格化していく。2015年に日本パラ水泳連盟の強化選手に選出され、パラアスリートとして転職、グローバルコンサルティングファーム EY Japan の所属となる。同年に行われた日本選手権で男子400m自由形と男子100mバタフライの2種目でアジア新記録を樹立した。

その頃からパラアスリートとしての講演活動を開始。障がい者理解、人権保護、難病当事者支援、スポーツ栄養学、メンタルヘルス、コーチング、目標達成などをテーマにこれまで全国各地で数百の講演を行ってきた。

2017年、日本体育大学の博士課程に進学。選手の自律を育む指導法(アスリート・センタード・コーチング)を中心に、パラスポーツの指導者育成における課題の解決に向けて研究に取り組んだ。同年、ジャパンパラ水泳競技大会で世界ランキング1位の記録をマークし、2018年にパンパシフィックパラ水泳選手権とアジアパラ大会で優勝、2019年の世界選手権で2つの銀メダルを獲得した。

2020年、東京オリンピック・パラリンピックの延期を受けて、パラリンピックの価値を伝えるためのプロモーション活動に挑戦、自宅でのトレーニングの様子やメッセージが国連のホームページや各種メディアなどに取り上げられ、注目を集めた。

2021年、東京2020パラリンピック競技大会で銀メダル2つ、銅メダル1つを獲得、日本人パラリンピック選手で唯一複数のドキュメンタリー番組が制作されるなど話題となった。

東京大会後はスペインに拠点を移してパリパラリンピックへの出場を目指す。日本との環境の違いやオープンコミュニケーションと幸福度の関係性などを実感、辻メソッドと併せて、周囲の多様性を受け入れることでより自分らしく高いパフォーマンスを発揮できるマインドセットについて伝えるため、インターネットラジオ番組や新聞でのコラム連載など情報発信も開始した。また所属企業では、女性アスリートのビジネスキャリア支援のグローバルプログラムWABNのアンバサダーや、宇宙開発スタートアップ支援を行う宇宙ビジネス支援室の立ち上げメンバーとして業務に参画、アスリート以外の活動の場を広げている。

2024年、パリ2024パラリンピック競技大会に出場、2つの銅メダルを獲得した。